

年 月 日 /

学校 年 組 番 名まえ

2024年7月17日付(共同通信社配信)

大型マグロ漁獲枠1.5倍

日本8421トンの国際合意

太平洋クロマグロの資源管理を話し合う国際会議が16日閉幕し、30キ以上の大型魚は2025年以降の全体の漁獲枠を1.5倍に拡大することで合意した。日本は2807トンの増え8421トンの資源量が回復傾向にあることを受けた措置。30キ未満の小型魚は全体で10%増とし、日本は4007トンの増え407トンの増え。

クロマグロは刺し身や高級食材として人気が高く、供給量に影響する漁獲枠の動向には消費者や漁業関係者が強い関心を寄せ

る。日本は漁獲枠全体で大型魚が2.31倍、小型魚が30%増を提案していた。中西部太平洋まぐろ類委員会

(WCPFC) 北小委員会などの国際会議が開かれた北海道釧路市で、水産庁が16日合意内容を説明した。「(日本の増枠幅は)思い切った提案だった。増枠に慎重な意見もある中、粘り強い交渉で合意できた」と前向きに評価した。輸入を含めた太平洋クロマグロの年間の国内供給量は3万3千トほど。水産庁は、今回の増枠の影響に

太平洋クロマグロの漁獲枠を巡る合意のポイント

- 2025年以降の全体の漁獲枠で大型魚を1.5倍、小型魚を10%増に拡大することで合意
- 日本の漁獲枠は大型魚が8421ト、小型魚が4407トにそれぞれ増加
- 小型魚の漁獲枠を大型魚に上乗せして振り替える特例の恒久化でも合意
- 今年11月下旬から始まる中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)年次会合で正式決定

ついて「現時点では予断し難い」としつつ、市場価格が下がる可能性もあるとみている。値下がりにつながれば食卓に並ぶ機会が増えそうだが、市場動向を見極める必要があるとも述べた。

全体の年間漁獲枠は大型魚が1万1869トで、小型魚が5125ト。うち韓国は大型魚が501ト、小型魚が718ト、台湾は大型魚が2947トとなった。小型魚の漁獲枠を大型魚に上乗せして振り替えられる特例や、当初の漁獲枠の17%を上限に未使用分を翌年に繰り越せる措置の恒久化でも合意した。

国際会議は、WCPFC北小委員会と全米熱帯まぐろ類委員会(IATTC)の合同作業部会が10日に始まり、WCPFC北小委員会は15、16日に開かれた。11月下旬に始まるWCPFC年次会合で日本を含めた漁獲枠を正式決定し、25年から適用する見通し。

太平洋クロマグロは乱獲で国際的な資源量が減り、15年から漁獲規制を導入。21年の会議で日本の提案が一部認められ、22年から大型魚で15%の増枠が実現した。資源量は10年に1万ト程度まで激減したが、22年には約14万4千トまで回復した。



境港に水揚げされるクロマグロ。5月、鳥取県境港市

太平洋クロマグロの漁獲枠を巡る主な経過

2015年	▶ 中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)が漁獲規制を導入
21年	▶ 日本の提案が一部認められ、22年から大型魚の漁獲枠15%増で合意
23年	▶ 青森・大間産で漁獲量の報告違反事件が発覚
24年	▶ 不正漁獲防止に向けた関連法改正案が成立
6月19日	▶ 水産庁が大型魚の漁獲枠を2.31倍、小型魚を30%増とする提案を発表
7月10日	▶ 25年以降の漁獲枠を議論するWCPFC北小委員会などが開幕
16日	▶ WCPFC北小委員会が25年以降の全体の漁獲枠で大型魚1.5倍、小型魚10%増で合意



太平洋クロマグロ「本マグロ」とも呼ばれるマグロ類の最高級品で、大西洋クロマグロとは別種。南西諸島周辺や日本海が産卵場で、小型魚の一部は太平洋東部まで回遊する。生後3年で体長120キ、重さ35キほどに成長する。日本国内は輸入や養殖品の流通も盛んで、水産庁の推計によると、大西洋クロマグロを含めた2022年の供給量は6万1800ト。

※レイアウトを一部再編

【問1】日本の大型マグロの漁獲枠は全体の約何%?

約70%(8421÷11869×100=70.9)

【問2】2015年に漁獲規制が導入された理由は?

乱獲で国際的な資源量が減ったため

【問3】太平洋クロマグロの産卵場は?

南西諸島周辺や日本海



よ 読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね